

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

●千葉大学園芸学研究科

「大学院環境園芸学エキスパートプログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

主に産業界で国際的にも活躍できる「環境園芸学」のエキスパートを養成することを目的として、従来の専門分野重視でなく、人間力、学際性及び応用性を重視し、講義科目と実習・演習を連結したカリキュラムの充実を図った。

博士前期課程では、講義と対応させたエキスパート演習・実習を園芸学研究科の各領域に設け、博士後期課程では、履修生が所属する専門分野のメインモジュールと異なった専門分野におけるサブモジュールを設けた。前期課程、後期課程それぞれに人間力につながる基盤科目の充実化を図った。これらにより、体系的なコースワークを構築した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ①学内での調整や実行を円滑にするため研究科長、各コースの代表者で構成するエキスパートプログラム委員会を毎月開催した。
- ②産業界で国際経験があり幅広い業務実績のある者をプログラムオーガナイザーとして任用し、学内の教員の連携、産業界の外部専門家、経験者との調整、産業人としての学生への指導・助言、の任にあたらせた。
- ③産業界、メディア、他大学の専門家や経営者から構成する外部評価委員から、カリキュラムの目的、適正さに助言を得た。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ①博士前期課程では、講義科目と連結した演習・実習を各領域分野に設け、6科目のエキスパート演習・実習を開設し、地域社会や産業界のプロジェクトに関わる生きた実学を提供できるようになった。
- ②博士後期課程では、園芸学研究科内の異なった複数の専門分野の教員の指導体制ができ、更に他研究科との連携へと発展した。
- ③外部研究機関や産業界と連携し、博士前期課程4基盤科目、博士後期課程5基盤科目の充実化を達成した。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

●千葉大学園芸学研究科

「大学院環境園芸学エキスパートプログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

基盤科目であるインターンシップにおいて、数多くの質の高い学外研修を可能にするために、当校の学生を優先的に受け入れるための提携促進、一般受け入れの仲介である経営者協会やハイパーキャンパスとの連携を図ると共に学内の統一したプロセスの確立を図った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ①学部、大学院のインターンシップ担当教員のネットワークの構築をした。
- ②提携機関に対する当校窓口教員の一本化と依頼書、覚え書きなどの書類整備と統一化を行った。
- ③提携企業を増加するため、卒業生の活用を行った。
- ④ガイダンスから学外研修、報告までの手順と心構えを示したインターンシップの手引きの作成し、学生、教員の参考とした。
- ⑤学外研修の成果を高めるため、事前のビジネスマナー研修を実施し、履修生の目標設定、日誌、報告書、報告会での発表の義務化した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ①大学院のインターンシップは、事前の平成19年度は7件であったが、平成20年度、21年度は各46件へと増加し、履修希望生全員が学外研修を可能にする体制を確立した。
- ②インターンシップに参加した学生によるアンケート結果では、90%がインターンシップに対して高い評価をする結果を得た。